

2025年4月17日

第1回アセアン・インド地域事務所研究報告会

奥田専務理事 総括および閉会挨拶

紹介がありました、専務理事でアセアン・インド地域事務所(AIRO)の所長の奥田でございます。

皆さま、本日は、第1回目の、AIRO 研究報告会にご参加いただき、また、研究報告に対しまして、有益なご質問・コメントをいただきまして、誠にありがとうございました。

閉会に当たりまして、ご挨拶を申し上げたいと存じますが、折角の機会でございますので、少々お時間を頂戴いたしまして、本日の4つの研究報告につきまして、それらの総括と今後の方向性について、コメントさせて頂ければと存じます。

まず、1番目の報告、高松研究員による「高速鉄道」についてでございます。

タイ、インド、インドネシアの事業路線及びベトナムの計画路線について、進捗に関する情報収集を行うとともに、事業リスクを探りました。

例えば、タイでは、タイ・中国高速鉄道と EEC 高速鉄道の乗り入れが計画されているバンスー駅周辺開発計画及び共有区間の課

題を、

また、インドのムンバイ・アーメダバード間高速鉄道では、建設現場の調査を踏まえ、土木工事の堅調な進捗を確認するとともに、都市鉄道との乗換利便性に関する課題を、

さらに、インドネシアのジャカルタ・バンドン高速鉄道についても、実際の乗車による調査を踏まえ、乗換利便性、駅周辺開発などの課題を、それぞれ紹介させていただきました。

加えて、計画路線でありますベトナム南北高速鉄道につきましては、駅周辺開発及び二次交通の充実といった課題の指摘や、過去に我が国が行ったプレ F/S での案と国会承認案との比較を行っております。

(開会挨拶でもございましたが、)安全で信頼性の高い高速鉄道を整備する必要性や意義には確かなものがありますが、難易度が極めて高い高速鉄道という交通インフラを実際にいかに実現するか、また、我が国は現在、インドの高速鉄道事業への支援を行っておりますが、我が国が誇る新幹線方式の高速鉄道システムを海外に展開していくために、明らかとなってきた課題対してどのように対応していくのが良いか、更なる調査研究を進めていきたいと考えております。

次に2番目の、岡田、重松両研究員による「持続可能な観光」についてでございます。

持続可能な観光に関して、①観光客の地方への分散、②環境・文化財保護と観光の両立、③観光分野における環境への対応、これ

らの3点を主要課題と設定し調査を実施致しました。

その上で、タイについては、地方分散、環境・文化財保護との両立の事例として、実際に現地調査を行ったタキアンティア・コミュニティについて、

また、ベトナムについては、2023年10月のシンポジウムや2024年10月のワークショップでベトナム側から紹介のあった、サパ市の電気トラムの事例やホイアン市の入場料等による財源確保などについて、調査を行い、紹介を行ったところでございます。

さらに、タイ、ベトナム、インドそれぞれについて政策や推進体制についての提案を行っております。

今後もタイ、ベトナムとは定期的かつ継続的に対話の場を設け、その成果をタイ、ベトナム両国政府と共有し、持続可能な観光の実現に向けた更なる議論を行っていきたいと思います。また今後、インド観光省とも共同で検討を進めたいと考えております。

さらに2025年度は対象国を広げた上で、これまでの調査を活用し、広く東南アジア地域・南アジア地域に共通する持続可能な観光の実現に向けた課題、解決策について検討を行ってまいります。

次に3番目、富田主任研究員、高島研究員による「物流」についてでございます。

本年2月のフィリピンでの物流シンポジウムにおける研究発表及び議論を踏まえ、フィリピンにおける高品質で信頼性の高い物流システム構築のためには、インフラ機能の強化、安定したRORO船ネットワークの構築、コールドチェーン物流の構築、DXや新技

術の導入、人材育成などの課題が明らかとなっております。

これらの課題に対しましては、タイをはじめとする、いわゆる陸 ASEAN の物流改善に向けた提案やコールドチェーンの普及に向けた当研究所の研究成果の一部を活用することができると考えております。引き続きフィリピン運輸省とこれらの課題について議論を深め、改善策の提案につなげてまいります。

また、タイ、フィリピンにおける物流改善の調査結果も踏まえながら、インドネシアの物流改善に向けた調査を行い、本年 9 月に、インドネシア運輸省と共催で物流シンポジウムを開催することと致しております。

さらには、南アジア地域の物流改善に向け、インド商工省からも物流改善に向けた議論を始めたいとの提案を受けており、是非、研究対象に加えて参りたいと考えております。

最後に 4 番目、高木、竹下両研究員による「道路公共交通」についてでございます。

バンコク、マニラ、デリーにおいては、路線固定型、ダイヤモンド型、による多様な道路公共交通サービスが存在する中、①各交通手段がどのようなニーズに応える形でサービスが提供されているのか、②どのような規制・監督がなされているのか、③関連する交通政策・KPI はどうなっているのか、④利用状況・事業者の採算性はどうか、について調査を実施致しました。

また、モビリティプラットフォームに関しても、①プラットフォームの種類、②規制・監督の状況、③課題、④さらには最新の動

向について調査を行いました。

これら道路公共交通サービス、モビリティプラットフォームはまさに日進月歩するものであり、引き続き東南アジア地域及び南アジア地域の主要都市での最新状況について、日本での新しいサービス展開への学びとしていくという視点も含めながら、調査してまいりたいと考えております。

以上、本日の報告内容を踏まえまして、私からの総括および今後の方向性についてのコメントをさせていただきました。

さて、設立後5年目に入りました AIRO は、東南アジア地域及び南アジア地域の交通運輸・観光の発展に向け、日・ASEAN・南アジアの産官学の皆様と連携し、また、ご協力も頂きながら、引き続き研究調査を行ってまいり所存でございます。本日ご参加頂きました皆様方におかれましても、AIRO の活動に対しまして、引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜れば幸いです。

最後に改めまして、長時間にわたりご参加いただいた皆様、また私どもの活動を幅広く支援いただいている日本財団に御礼を申し上げまして、私からの閉会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。